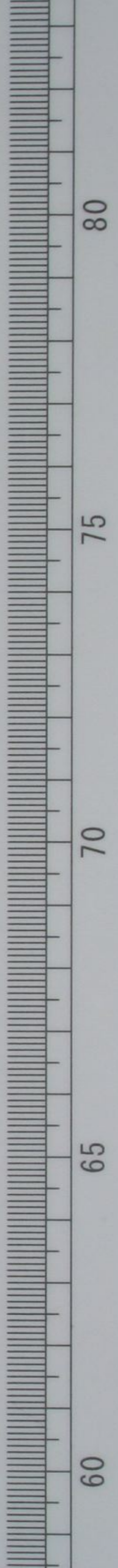


LICENSED PRODUCT
Black
3/Color
White
Magenta
Red
Yellow
Green
Cyan
Blue

再 版
學 校 唱 歌
卷 五



(原田甲爾所印行)







明治音樂會編纂

學校唱歌

五卷

東京 十字屋發行

學校唱歌

緒言

普通教育に於る音樂唱歌の重なる目的は、兒童の品性を陶冶し
美想を涵養するにあり、本會の此編を公するまた此主旨に外
ならず、所謂教育的音樂の方面に對つて、聊か盡瘁せんとす、要は
汎く樂界全般の發達を期せんが爲めなり、
此書輯むるところの歌曲凡て十七曲、主として兒童の心意を慰
安し、音樂的智識を啓發するにあり、之れ學校唱歌と名づくる所
以なり、

歌は文學大家金玉の佳什を網羅し、曲は皆な本會員の新作に係
る、茲に本會は深く諸大家の特に執筆せられたる勞を謝す、

明治三十一年七月

編者識

學校唱歌上卷

目次

學校さして	作歌者 大和田建樹	作曲者 納所辨次郎
寄梅詠菅公	旗野十一郎	多忠基
紙	鳶	佐々木信綱
水邊の梅	鳥居	忱
親友	東宮鐵真呂	稻岡美賀雄
嵐山	大和田建樹	東儀俊龍
仁	鳥山	啓
五月人形	大和田建樹	東儀季治
		高濱孝一

三二

平重	盛	鳥居	忱	天谷	秀
田植	歌	中村秋香	鈴木米次郎		
螢	狩	佐々木信綱	蘭	廣	虎
滑	川	鳥山	啓	金須嘉之進	
花	火	旗野十一郎	櫻井	信彰	
暑	中	暇	大和田建樹	比留間賢八	
子の	道	鳥山	啓	多忠告	
土曜	日	旗野十一郎	早川喜左衛門		
海	國	東宮鐵真呂	前田久八		

學校さして

大和田建樹作歌

納所辨次郎作曲



1. あめふりかぜふきあーるるひにも
2. ユキニモシモニモナーレシミチチ
3. たのしみまちたるうんごうくわいも



たゆまずいそがんがくかうさして
カフモロガントオーヤノメケミ
ちかくにあるべしいーそげさもよ



まごよりまれくほげふしかさもか
ノドカニテラスハアーサノヒカゲ
はたさりきようさうかーちはたれぞ



たのしきがくくわはげーふもあらた
サヤカニヒビクハトーモノシウカ
たゆまずまなびてのーちにあそべ

學校さして

大和田建樹作歌
納所辨次郎作曲

一、雨ふり風ふき荒るゝ日にも、

たゆまず急がん學校さして、

窓より招くは教師か友か、

たのしみ學課は今日もあらた、

二、雪よも霜にも馴れし道を、

かよふも我師と親のめぐみ、

のどかにてらすは朝の日かけ、

さやかにひびくは友の唱歌、

三、樂しみまちたる運動會も、

近くあるべし急げ友よ、

旗とり競争勝はたれぞ、

たゆまずまなびてのちにあそべ、

一、ふり積む雪に文の窓
 君もろともよにこの花は
 二、東風吹くよとに幾千歳
 其名はたかむ飛梅や

開くは梅とめづる君
 春ある限りにほふなり
 かはらぬ春の花の兄
 こゝろを君に筑紫まで



寄梅詠菅公

旗野十一郎作歌
 多忠基作曲

寄梅詠菅公

旗野十一郎作歌

多忠基作曲

程よき速度に



1. ふりつむゆきにふみのまど
 2. コチフクゴトニイクチトセ



ひらくはうめさめづるきみ
 カハラヌハルノハナノアニ



きみもろさもにこのはなは
 ソノハナタカシトピウメヤ



はるあるかざりにほふなり
 ココロチキミニツクシマテ



紙鳶の歌

佐々木信綱作歌

島崎赤太郎作曲



1. ひさのあげ—たるそれよりも
 2. フキクルカ—セニウチノリテ
 3. いさのかぎ—りなのばしたり



あがれよわがたこたかくたかく
 アガレヨワガタコタカクタカク
 あがれよわがたこたかくたかく



あがれよそ—らにあなぞらに
 ウナリノコ—エノイサマシク
 く—ものうへにもいたるべし



紙鳶

佐々木信綱作歌
 島崎赤太郎作曲

一、人のあけたるそれよりも、

あがれよ我紙鳶高くたかく、

あがれよそらに

青空に、

二、吹きくる風にうちのりて、

あがれよ我紙鳶高くたかく、

うなりの 聲の

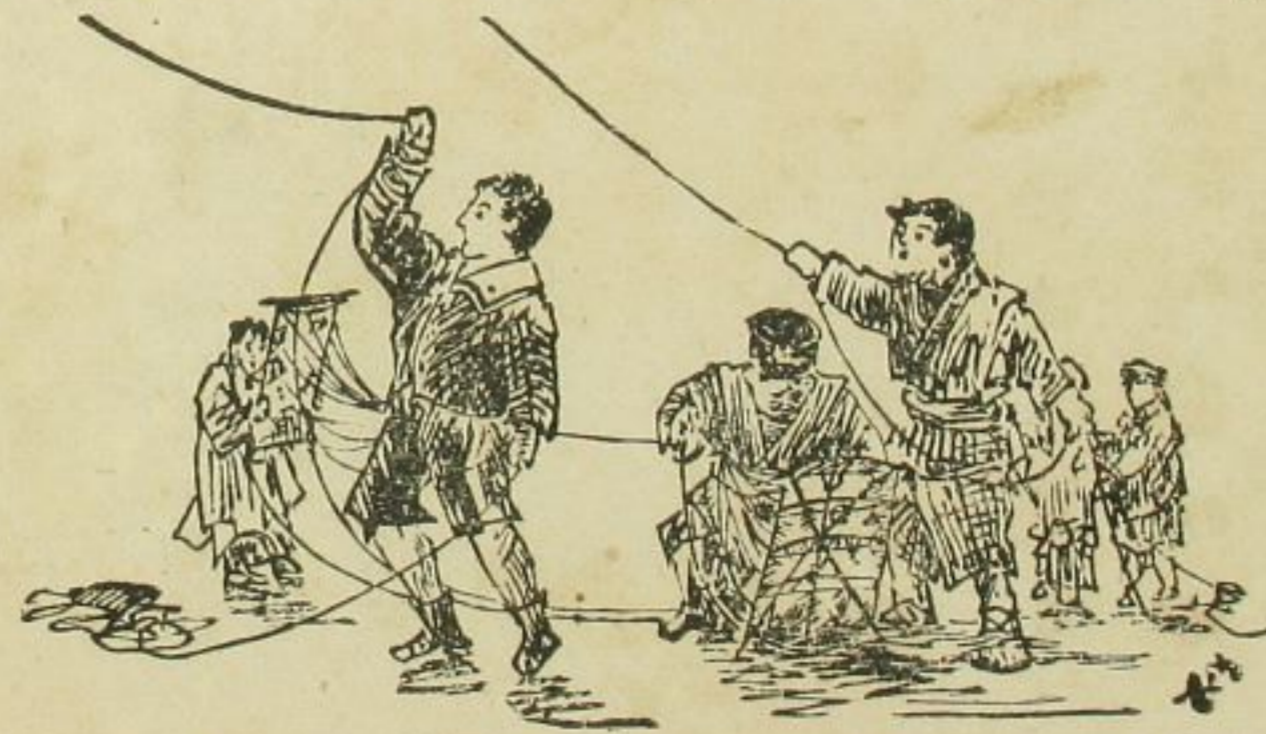
いさましく、

三、糸のかぎりをのばしたり、

あがれよ我紙鳶高くたかく、

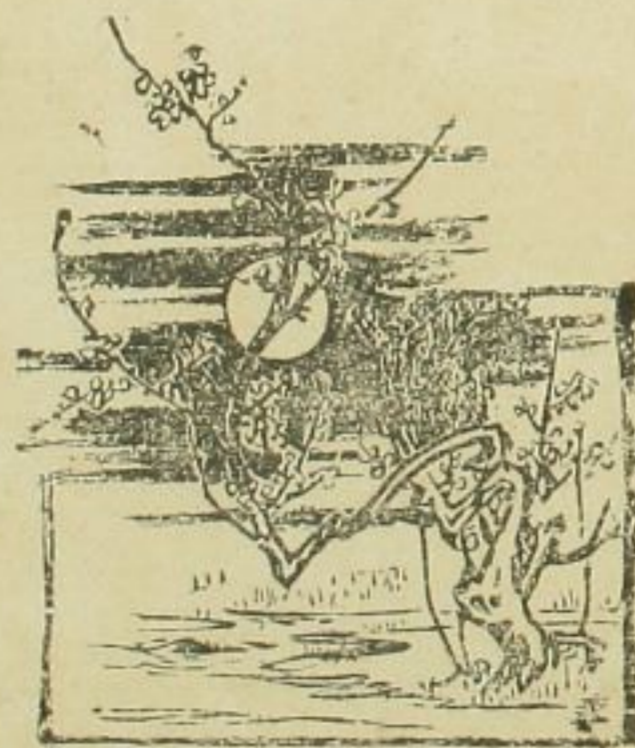
雲のうへにも、

いたるべし、



疎影横斜水清淺
 暗香浮動月黃昏

流るゝ川を花とみて
 汀の梅や影うつる
 折られぬ水に袖ぬらす



鳥居
 大村怒三郎作曲
 枕作歌

水邊の梅

水邊の梅

鳥居枕作歌

大村怒三郎作曲

6 6 + 6 6 + 3 2 3 7 6

きよきながれのいささかは

2 2 2 7 6 5 4 3 2 1

みぎはのうめやかげうつる

3 3 3 6 5 4 3 2 1

ながるるかはをほなそみて

7 7 6 5 4 3 2 1

をられぬみつにそでぬらす

6 6 6 6 5 4 3 2 1

そゑいわうしやみすせいせん

2 2 3 4 5 6 7 8 9 10

あんこいふどふつきーこいこん

親 友

東宮 鐵 眞 呂 作 歌

稻岡 美 賀 雄 作 曲



1. し ろ か れ こ が れ そ れ よ り も
 2. ヲ レ シ キ オ リ モ サ キ ト キ モ
 3. ま な び の ま じ に あ る な り も



わ れ ら が こ も の み に そ へ て
 ト ア ラ ヒ キ テ ハ カ タ リ ア ヒ
 こ こ な し を へ し そ の の ち も



た ふ こ き も の は へ だ て な き
 ア ル ハ ナ グ サ メ ア ル ハ セ メ
 こ の ま じ は り を つ づ け な ば



ま な び の ま じ の こ も な り や
 ア カ キ コ コ ロ ナ ツ ク ス ナ リ
 そ の た の し み や い か な ら ん

親 友

東 宮 鐵 眞 呂 作 歌
 稻 岡 美 賀 雄 作 曲

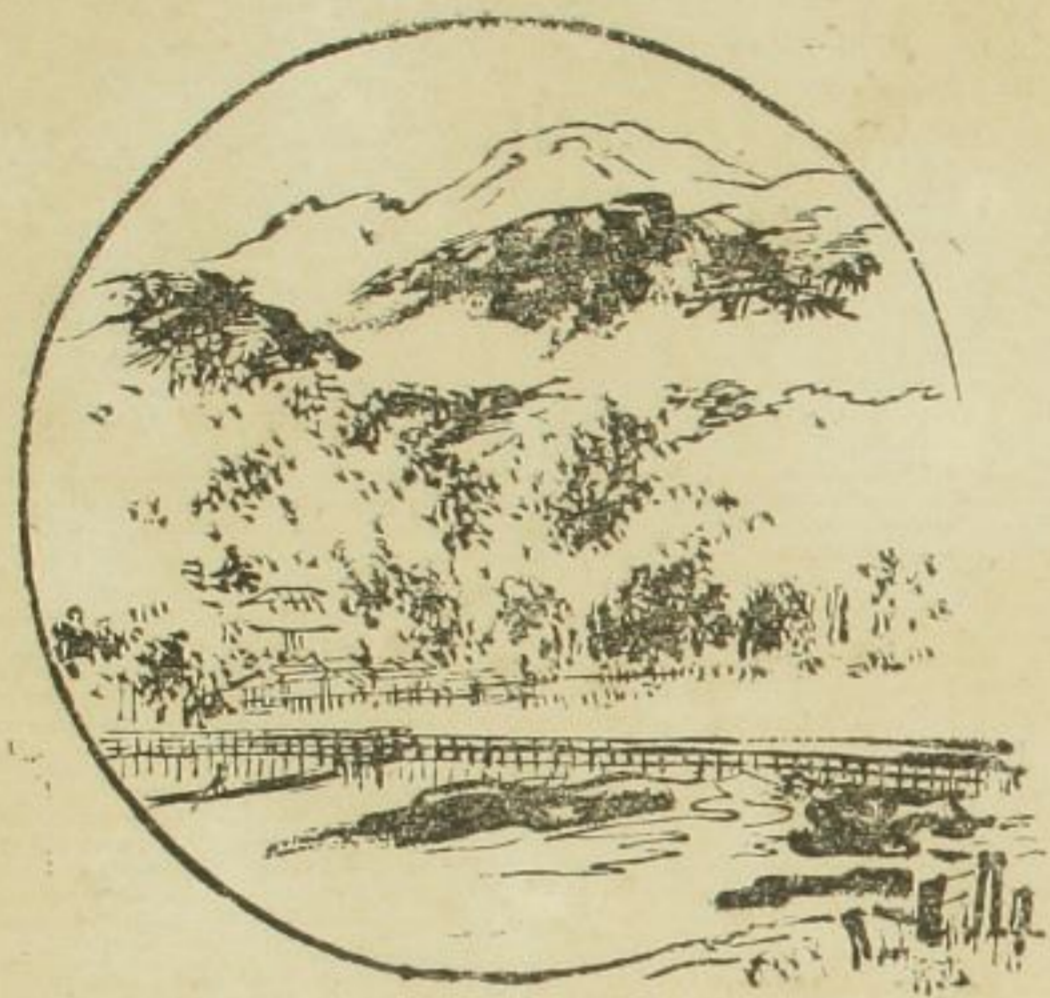
一、し ろ が ね 黄 金 そ れ よ り も、
 二、う れ し き を り も 憂 き 時 も、
 三、ま な び の 窓 に あ る を り も、

此のまじはりをつづけなば、

一、我れ等が徒の身にそへて、
 二、まなびの窓の友なりや、
 三、事なし卒へしその、ちも、

その樂しきやいかならん、





一、夕暮
眠れる松の風絶へて、

嵐山

大和田建樹作歌
東儀俊龍作曲

雪か雲かひる見ら花か、
小鳥の歌またひゞかず、
霞の底に行く水の、聲はさながら昔まで、

二、ふもとの峯も暮はてよ、

唯静かなる夜の空

波なき水に雪ちりて、

いかだの棹またひゞかず、

橋をわたりにてゆく月の、

影はみらよのまゝにして、

嵐山

大和田建樹作歌

東儀俊龍作曲

程好き速度に

1. ゆふぐれし ろさあらしやま
2. フモトノ ミ ネモクレハテテ

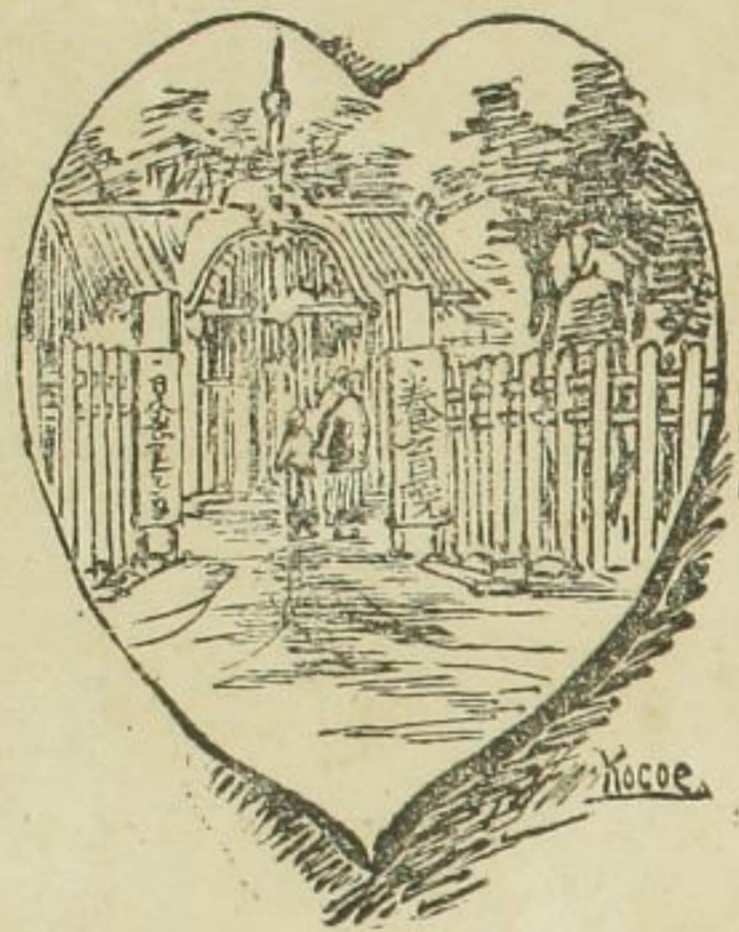
ゆーまか くもか ひるみしはなか
タダシヅカ ナルヨールノソーラ

ねむれるまつのかげにへて
ナミナキミヅニユキチリテ

こさりのうたまたひびかず
イカダノサホマタヒビカズ

こさりのそこのゆくみづの
ハシチヲタリテユグツキノ

こさはさながらむかしにて
カゲハミシヨノママニシテ



一、人のいたさを身につみて
 れのがこのまぬ事はしむ

仁

二、我にまさりて哀なる、
 人の貧苦を救ふべし、
 我にまさりて淺まらき、
 人の艱難助くべし、
 人にさせじとれもふこそ、
 人の心の誠なれし、

鳥山 啓作歌
 高濱 孝一作曲

仁

鳥山啓作歌

高濱孝一作歌

Handwritten musical notation with lyrics in two parts:

1. ひーさのいたさをみにつみて
 2. ヲーレニマサリテアハレナル

おのがこのまぬこさはしむ
 ヒトノヒンクータスクベシ

ひさにさせじとおもふこそ
 ヲレニマサリテアサマシキ

ひさのこころのまことなれ
 ヒトノカンナスタスクベシ



五月人形

大和田建樹作歌

東儀季治作曲

5 4 3 2 3 4 5 4 3 2 1 1 1 1

強く ひなごしのよろいくわがたのかぶこ

2 2 1 2 3 3 2 1 1 3 2 2

むかふにてきなきゆうしやうは

少し強く やしまのいくさになをえたる

6 6 1 1 1 2 2 1 1

くらうはんおんよしつねよ

3 3 3 2 4 3 2 4 3

強くにつほんぶしのそのもはん

十九

5 3 2 6 6 1 1 1 2 2 3 2 1 3 4

しめしてたてるいなきし

最も強く いはへたらうのはつのほり

6 6 1 1 1 2 2 1 1

しょうぶがたなもさりそへて

太郎の初戦

示して立てる

勇ましさ

祝へ

日本武士の其模範

戦に名を得たる

九郎判官義経よ

向ふに

敵なき

勇將は

屋島の

緋威の鎧

鍬形の兜

大和田建樹作歌
東儀季治作曲

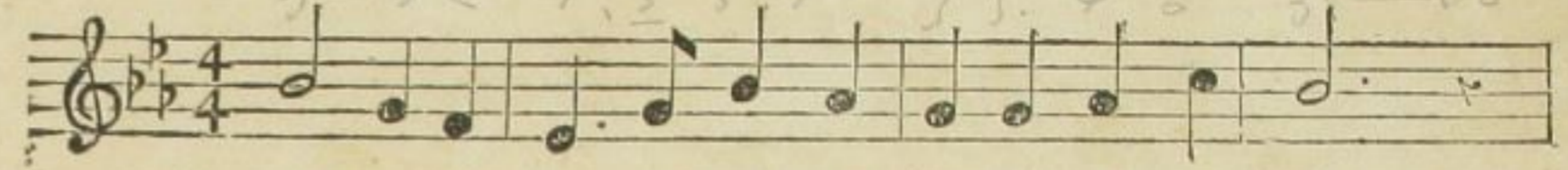
五月人形



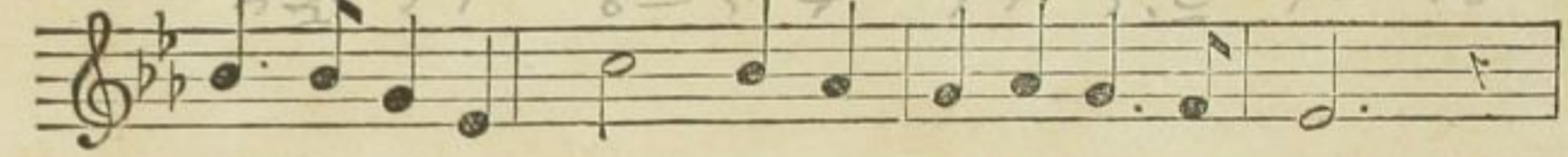
平 重 盛

鳥居 忱 作 歌

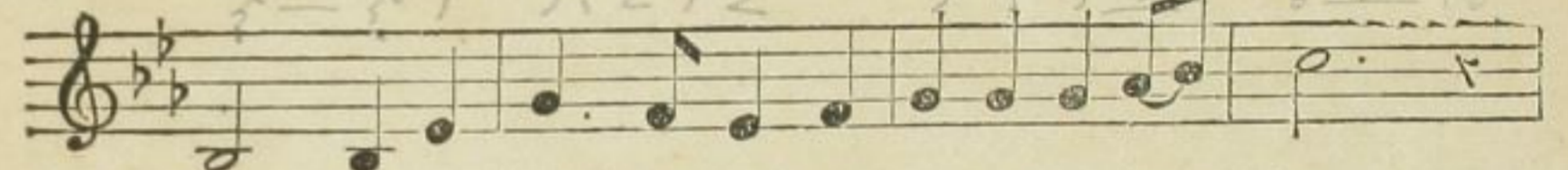
天 谷 秀 作 曲



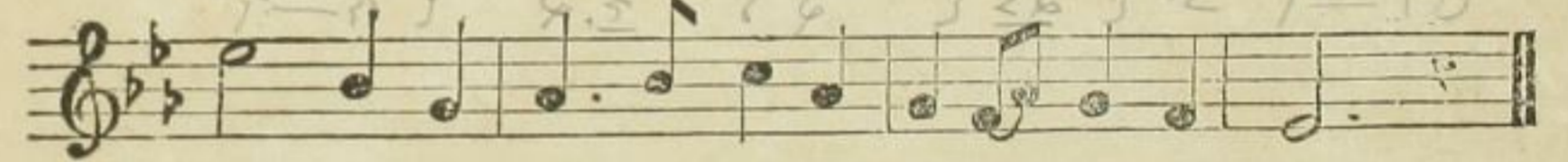
1. ひ る も し づ け き あ き の み や
 2. オ ホ ク ノ コ ー タ チ サ ハ ガ サ バ
 3. お い ー こ こ た へ て も の の ふ が



チ ス ヌ レ コ メ シ ヒ サ シ ノ マ
 み ー や ヌ お よ ほ す お そ れ あ リ
 ミ ハ シ ノ モ ト ニ ヒ ザ マ ツ キ



い さ も あ や し や く ち な は ー の
 ヲ カ リ ヲ ー リ テ ト ラ ヘ ヅ ー ツ
 そ の く ち な ー は を て に う け ー て



か し ら さ さ げ て わ だ か ま る
 ソ テ ニ カ グ レ テ ヒ ト ー ナ ヲ プ
 も の こ も せ ー す に ま か ん で ぬ



平 重 盛

鳥 居 忱 作 歌
 天 谷 秀 作 曲

一、晝も静けき秋の宮

小簾垂れ籠らぬ廂のま

いとも怪しやくちなはの

頭棒て蟠る

二、多の御達騒さは

宮に及ほす恐れあり

静に寄りて捕へつゝ

袖にかくれて人を呼ぶ

三、オーと答へて武士が

御陸の下に跪き

其くちなはを手に受けて

物ともせず罷出ぬ

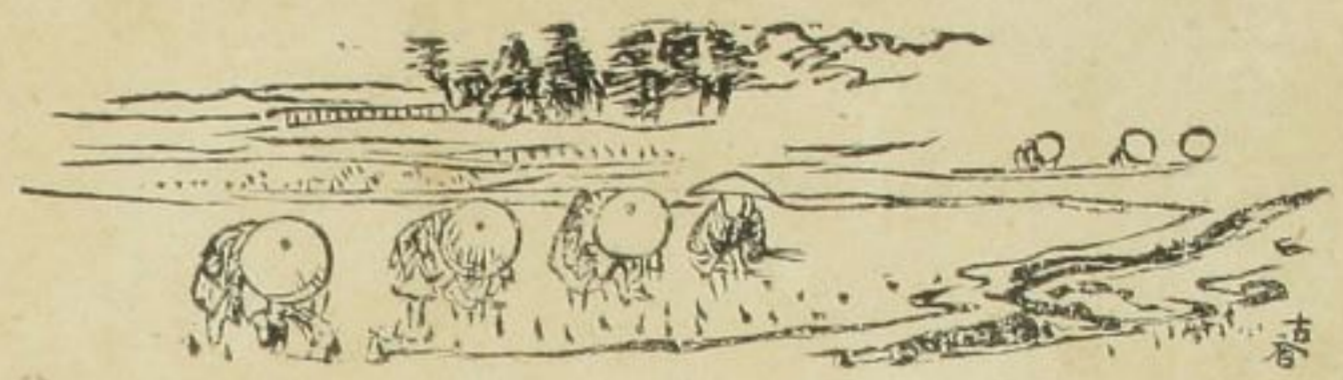
田 植 歌

中村秋香作歌

鈴木米次郎作曲

1. いざやみらんおだのつゆのたまな
 2. ウエソハテンチダノツユノタマナ

へかざすやすげかさにあさひなうけ
 へタモトニユフツキノカゲチャドシ



ていつかのかぜにさなかのあめ
 テホニホサカエンコトシノアキ

のめぐみをもろこもにいのりあひつつ
 ノタノミチモロコエニイハヒツレツツ

田 植 歌

中村秋香作歌
 鈴木米次郎作曲

一、いざや取らん小田の

露の玉苗

かざすや菅笠に

朝日をうけて

五日の風に十日の雨の

恵を 諸共に

二十二

祈りあひつゝ

二十三

二、植ゑどはてん小田の

露のたまなへ

袂は夕月の

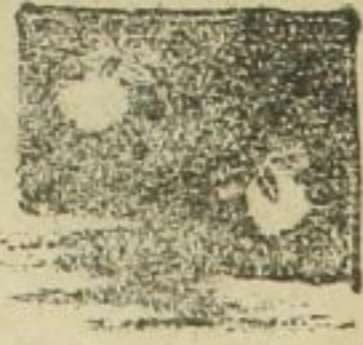
影を宿して

穂は穂榮えん

今年の秋の

たのみを、 諸聲に

祝ひつれつゝ



螢狩

佐々木信綱作歌
 蘭 廣 虎作曲

一、夕日は山にかくれはてぬ、

鎮守の森も見えずなりぬ、いさやいさ

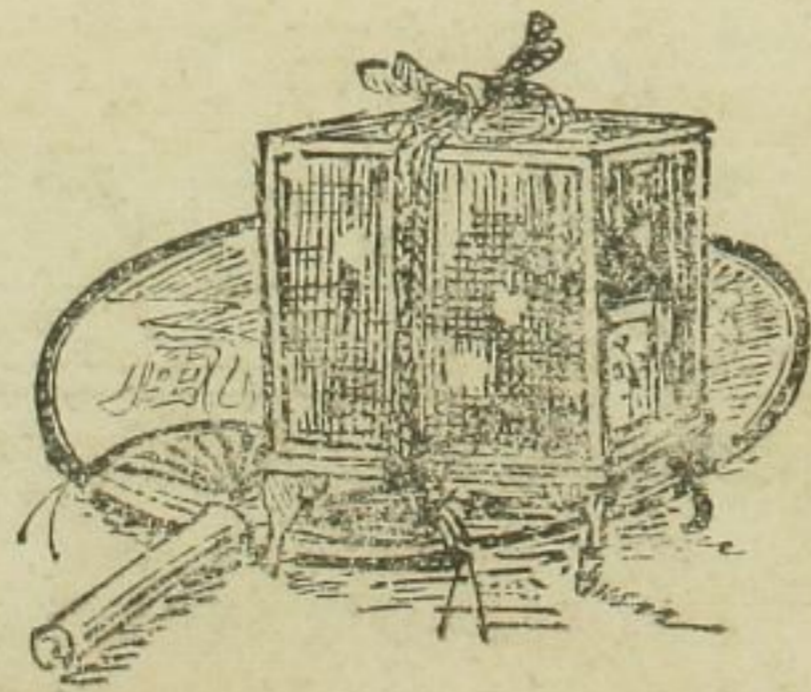
打つれゆかむ、すゞみがてらの螢かり、

二、川のあなたに艸のかげに、

それくゝそこに又もこゝに、螢は籠に

みちにけり、いさやいさ、共にかへらむ

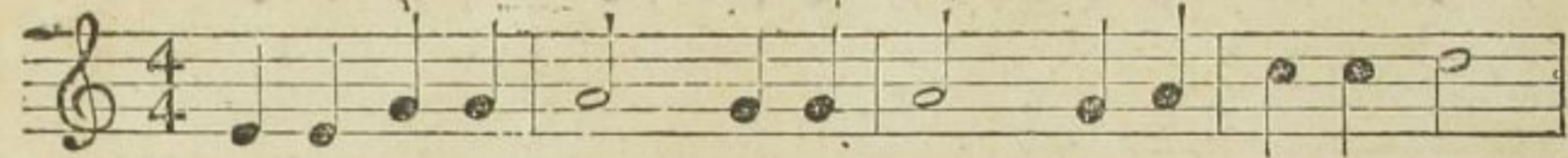
くらき夜道を てらむつゝ、



螢 狩

佐々木信綱作歌

蘭 廣 虎作曲



1. ゆふひは やまに か くれ は て ぬ
 2. カ ー ハ ノ ア ナ タ ニ ク サ ノ カ ゲ ニ



ち ん じ ゆ の も り も み え す な り ぬ
 ソ レ ソ レ ソ コ ニ マ タ モ コ コ ニ



ひ ー る の あ つ さ を わ す る べ ー く
 ホ タ ル ハ カ ゴ ニ ミ チ ニ ケ ー リ



い ー ざ や い ざ う ち つ れ ゆ か む
 イ ー ザ ヤ イ ザ ト モ ニ カ ヘ ラ ム



す す み が て ら の ほ た る が り
 ヲ ラ キ ヨ ヨ チ テ ラ シ ツ ヲ

三家の榮を進むるは、
 栗たまりて淵深し、
 塵も積れば山高し、
 二有りし昔を鏡よて、
 國の寶と貴みて、
 家の榮をすゝむべし、
 蘆の一葉もはふらさず、
 國の榮のもとぞかし、

一、流れゆくせに落し、を、
 松の光は探りつる、
 心深しや
 滑川、これぞ世人の鏡なる、

鳥山啓作歌
 金須嘉之進作曲



滑川

滑川

鳥山啓作歌

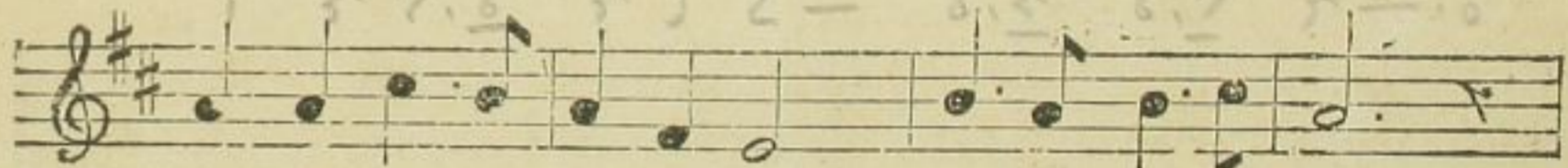
金須嘉之進作曲



1. な がーれ ゆくせーにおさししな
 2. ア ヴーシ △カシーチカガミニテ
 3. い へーの さかへーをすすむるは



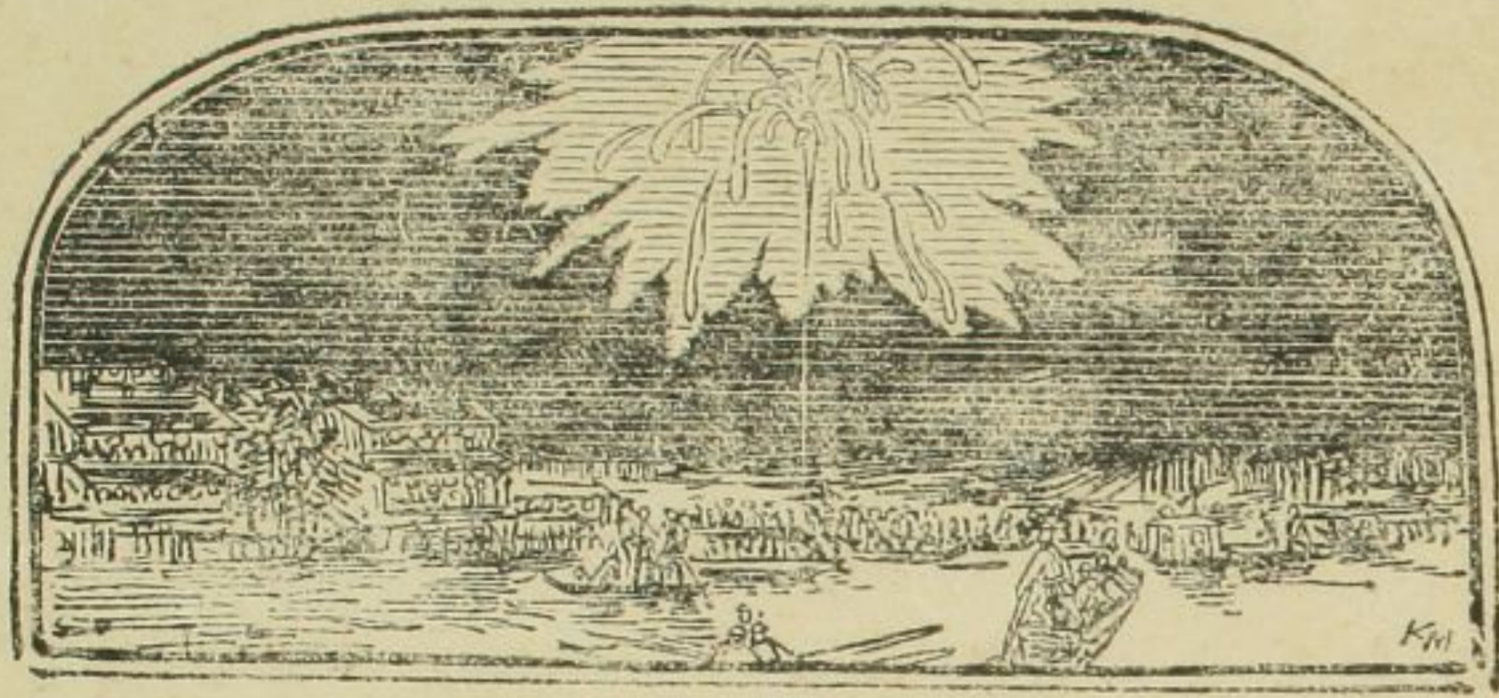
ま つーの ひかりに さぐりつる
 ア シーノ ヒトハモハフラサズ
 く にーの さかへの もさぞかし



こゝろ ふかしや なめりがは
 クニノ タカラト タフトミテ
 しづく たまりて ふちふかし



こ れぞよひさのかがみなる
 イ へノサカヘチススムベシ
 ち りもつしればやまたかし



花 火

一、雲なき天に雷ひびき、
 雌龍雄龍のたゝかひを、
 二、あふげは夏のよいながら、
 柳櫻をこきませり、
 三、涼しき風に流れゆく、
 たまやかきやの聲のうち、

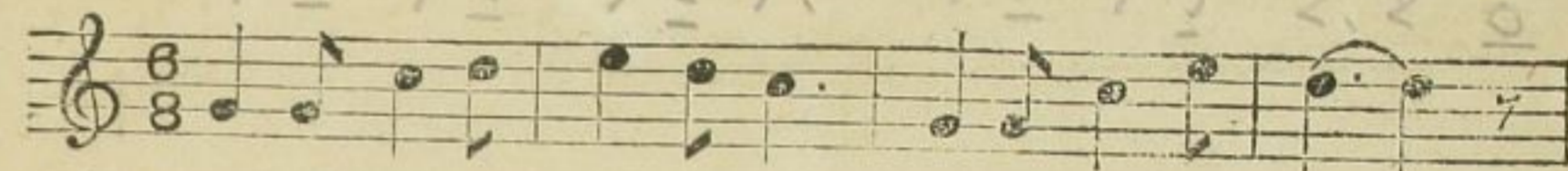
火雨電火すさまじく、
 月清む夏の空に見る、
 暗に錦のいろもこく、
 都のはるを空に見る、
 天の磐船かけきえて、
 五色の星を空に見る、

旗野十一郎作歌
 櫻井信彰作曲

花 火

旗野十一郎作歌

櫻井信彰作曲



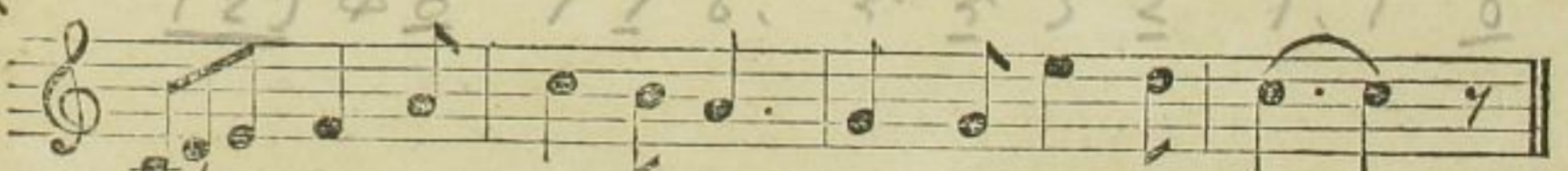
1. くもなき てんに らいひびき
 2. アフゲバ ナツノ ヨヒナガラ
 3. すすしき かぜに ながれゆく



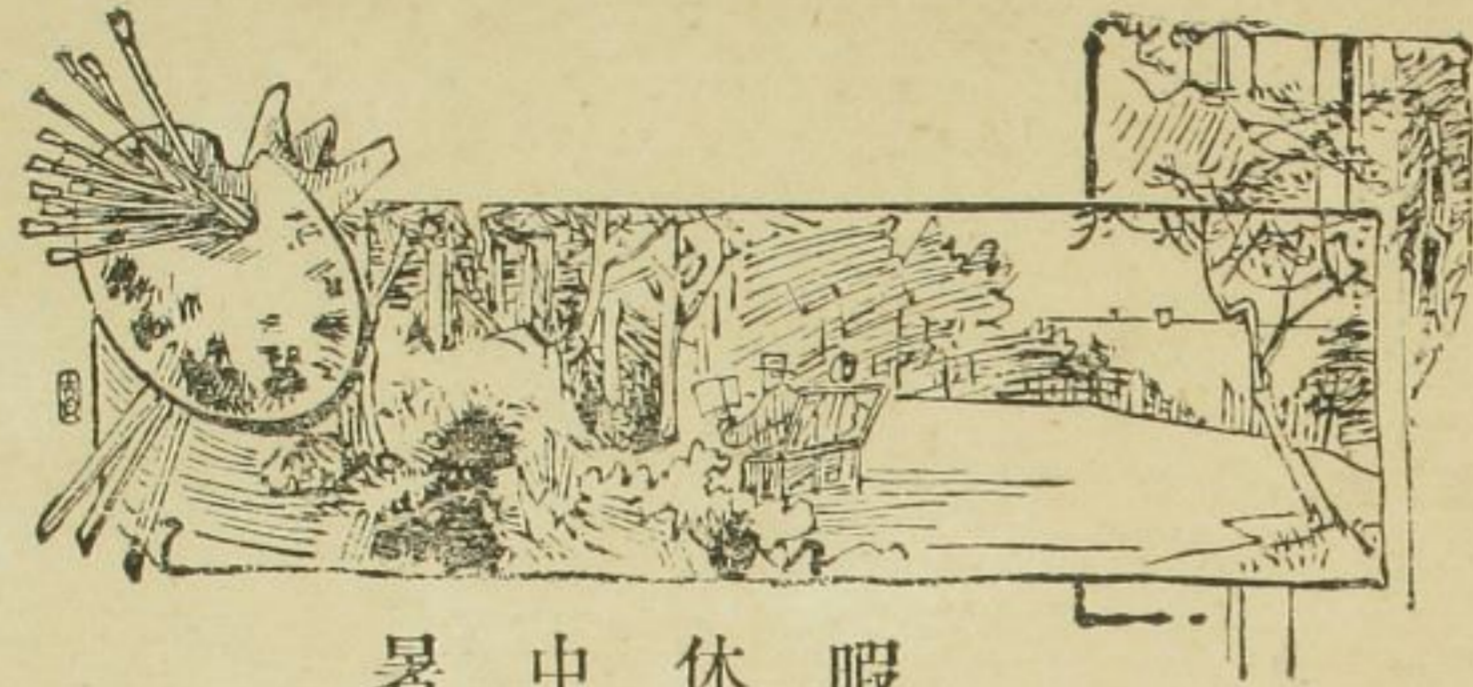
ひさめい なづま すーさまーじく
 ナミニニ シキノ イーロモーコク
 あまのい はぶね かーげきえて



めりようお りようの た たかーひな
 ナナギサ クラチ コ キマセーシ
 たまやーか ぎやの こ ゑのーうち



つーき すむ なつ の そらにみる
 ミーヤコノ ハルチ ソラニミル
 ごしきの ほしを そらにみる



暑中休暇

佐々木信綱作歌

比留間賢八作曲



1. すすしきやまにーのぼらんか
2. シバシーワカレテオノガシシ



なつなきうーみにあそばんか
ココロゴコーロニユクコヲヨ



わかばしげれるこうゑんの
チモシロクハタスコヤカニ



こかけにふーみたよむべきか
ナツノヤスーミチスダセカシ

三十一

暑中休暇

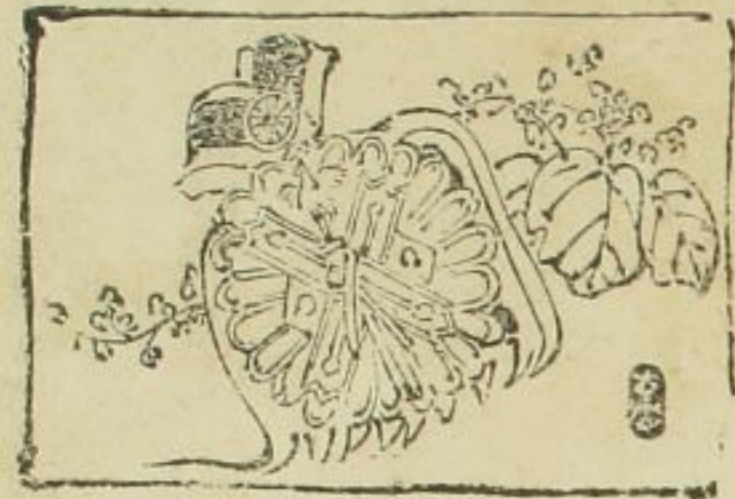
一、涼しき山よのぼらむか、
夏なき海にあそばんか、

若葉しげれる公園の、
木陰に書を読むべさか、

二、心々にゆく子らよ、
たもとろくはたすこやかに、
夏のやすみをすぐせかえ、

比留間賢八作曲
佐々木信綱作歌





子の道

一、 身體 髪 膚 疵 づ くな
 心はまらして邪の穢に、
 染むな 露はとも、

二、 枕を夏は扇ぐべし、
 衾を冬は暖めよ、
 まみわて親を慰めよ、

三、 身をたて道を行ひて、
 後の世までも己が名と、
 是なん孝の終りなる、

親の名さへも顯はすは、
 是なん孝の終りなる、

鳥山啓作歌
 多忠告作曲

子の道

鳥山啓作歌

多忠告作曲



p 1. しんたいはつ ぶーきづつくな
 2. マクラチナ ツハアフカベシ
 3. みなたてみ ちをおこなひて



mf ふほよりう けしたまものぞ
 フスマチフ ユハアタメメヨ
 のちのよま てもおのがなさ



p こころはまらしてよこしまの
 イツレハツゲテカヘリナマ
 おやのなさへもあらはすは



mf けがれにそむなつゆほごも
 マミエテオヤチナカサメヨ
 これなんここのなわりなる

明	終	特	同	あ	習	別	一
る	日	に		す	ひ	き	日
			ま	の	と	て	
朝	明	け	な	休		け	ふ
よ	日	ふ	び	暇	事	ふ	み
り	は	は	の	に	の	は	よ
							む
は	遊	樂	園	遊	温	嬉	何
け	び		の	ふ	習	と	時
む		き					
思	く		道	思	終	き	も
へ	ら			へ	へ	な	な
は	ら	日	も	は	て	が	が
							ら

旗野十一郎作歌
早川喜左工門作曲

土曜日

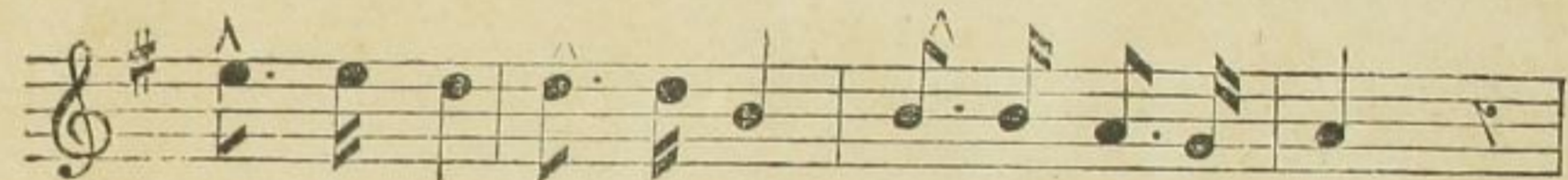
土曜日

旗野十一郎作歌

早川喜左工門作曲



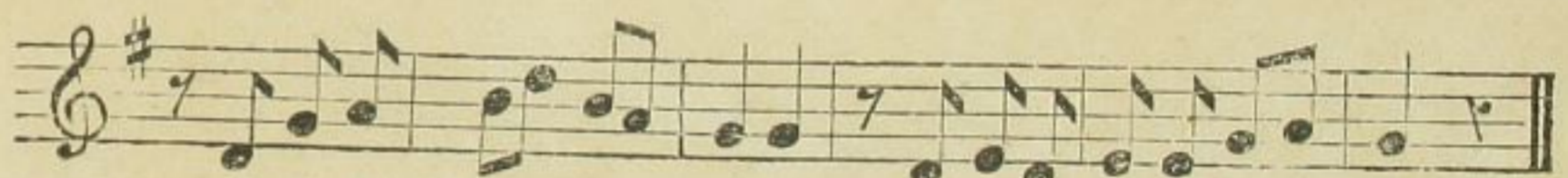
mf 1. ひさひふ—み—よむ いつも な—が—ら
2. オナシ マ—ナ—ピノ ソノノ ミ—チ—モ



f わき て け ぶ は う れ し き ひ
コ ト ニ ケ フ ハ タ ノ シ キ ヒ

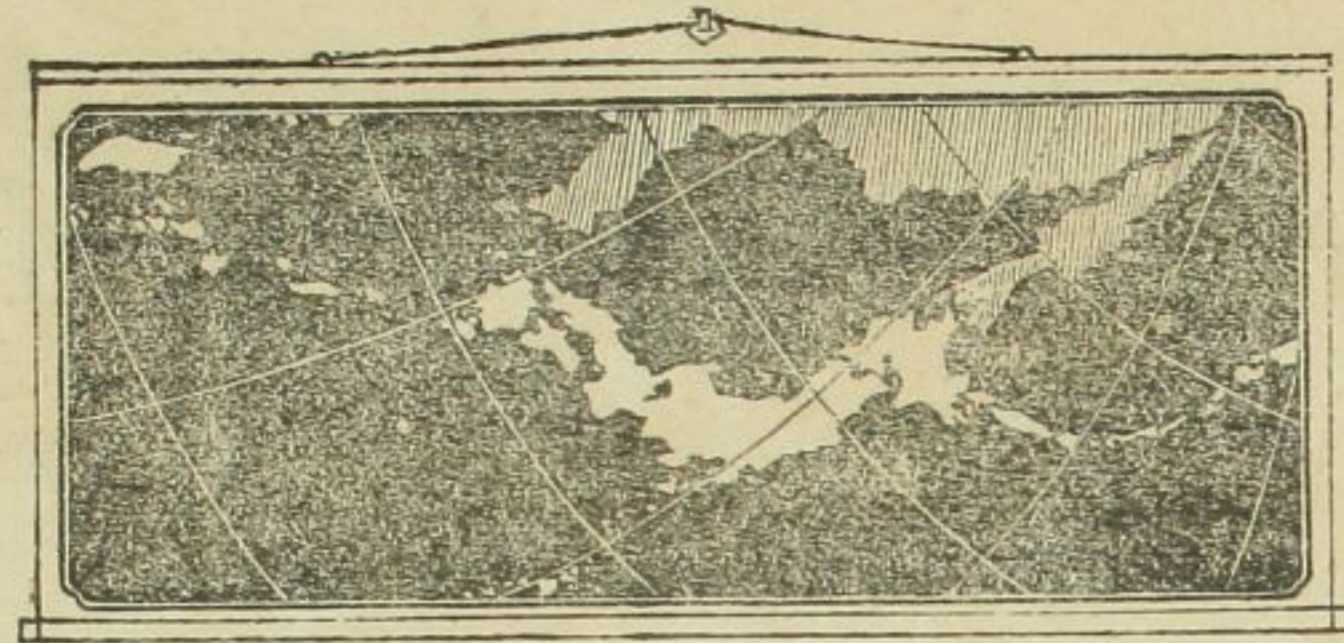


f は ら ひ し こ どの — し ら べ な へ て
ヒ チ モ ス ア ス ハ — ア ツ ビ ク ラ ヂ



p あ ず の や — す — み に あ ぞ ぶ お も へ — ば
ア ク ル ア — サ — ヨ リ ハ ゲ ム オ モ へ — バ

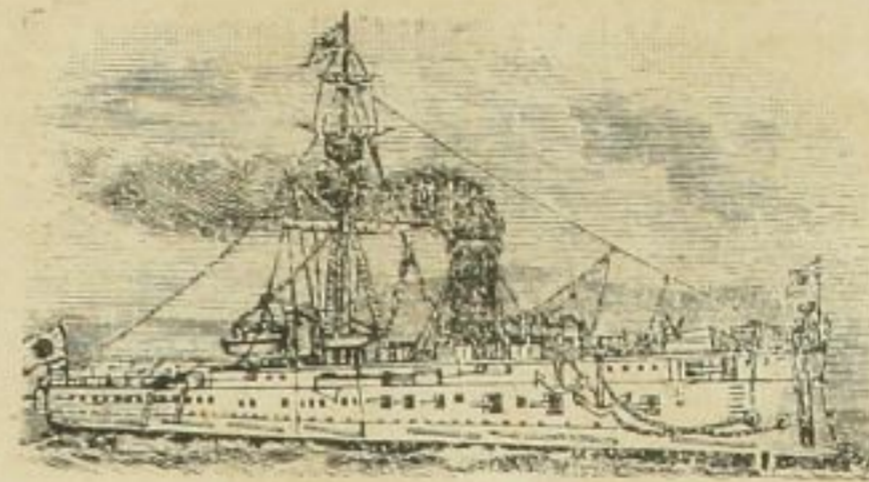




一、海もて圍める我が國は、海もて國をは守るべし、
 海には國家を守るべき、あまたの軍艦浮ぶなり、
 二、此の軍艦のうち乗りて、逆まく荒波ふみやおり、
 はてなき海原のりまはす、海軍兵士のいさましさ、
 三、我等も皇國の民なれば、勇みて勵みてもろ共に、
 海國男兒の本分を、いさや盡さん國のため、

海 國

東宮鐵眞呂作歌
 前田久八作曲



海 國

東宮鐵眞呂作歌 前田久八作曲

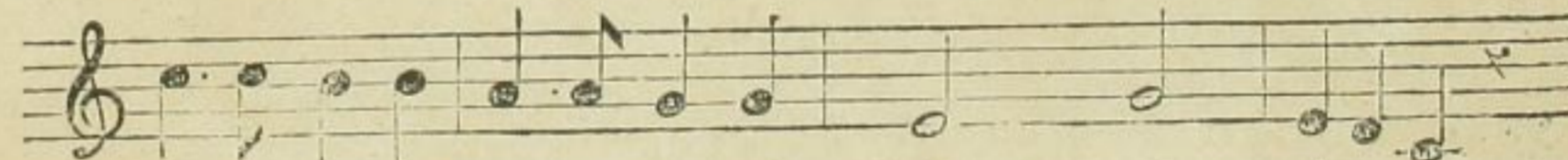
はやく



1. うみもてかこめるわがくに は
 2. コノケンカンニサチノリ テ
 3. われらもみくにのたみなれ ば



うみもてくにをばまゝるべし
 サカマクアラナミフヨサブリ
 いさみてはげみてもろさもに



うみにはこつかなまもるべき
 ハテナキカナバラノリマハス
 かいこくだんじのほんぶんを



あこたのぐんかんうかぶなり
 カイケンヘイシノイサマシサ
 いさやつくさんくにのため

明治卅一年八月一日印刷
 明治卅一年八月四日發行
 明治卅二年七月一日再版發行

編輯者

明治音樂會

正價金拾五錢

右代表人
 東京市牛込區中町三十五番地

東儀季治

全 京橋區銀座三丁目二番地

倉田繁太郎

全 京橋區銀座三丁目二番地

十字屋

全 京橋區元町寄屋町四丁目二番地

杉原弁次郎

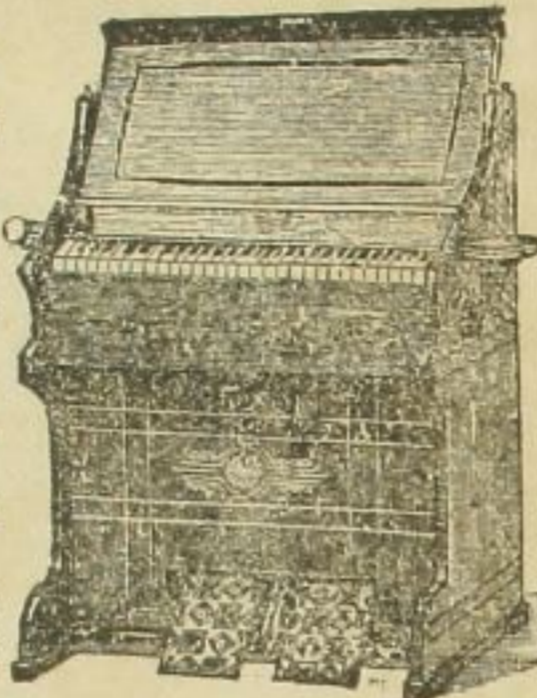
全 京橋區元町寄屋町四丁目二番地

杉原商店印刷部

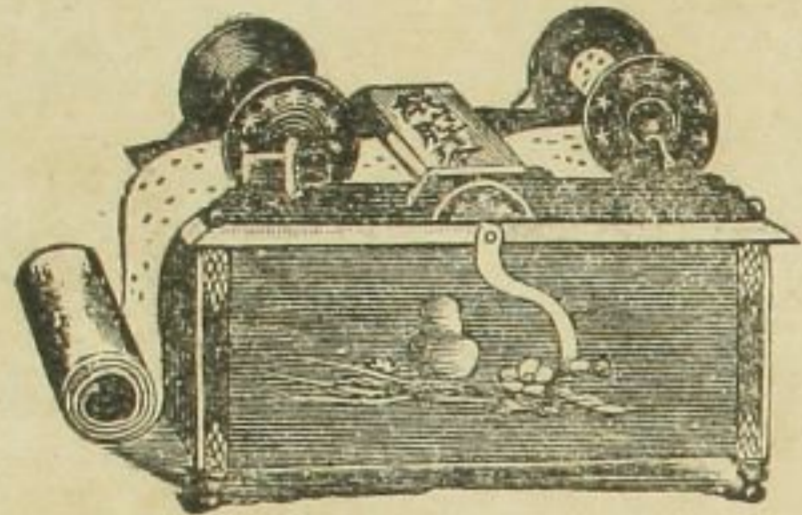


西川製風琴

音律正確

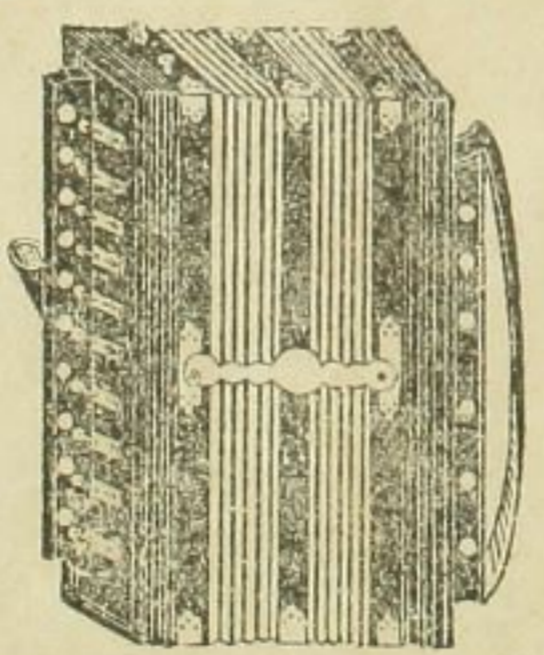


壹號	貳號	三號	四號	五號	六號	七號	八號	九號	十號	十一號	十二號	十三號	十四號	十五號
金二十八圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓	金二十七圓



無師紙腔琴
 本器は誰人にも習はずし
 て長唄端唄清元地唄軍歌唱
 歌等奏曲の妙を自由ならし
 むる輕便なる音樂器にて藝
 に宮内省御用の恩命を博し
 大博覽會都度受賞の名譽を
 得るとなき名器故へ花晨
 月夕無聊閑臥の好伴侶とし
 陸續御用命あらんとを乞ふ
 大形上製十五圓中製九圓
 七十五圓並製七圓小形上製
 五圓中製四圓並製三圓卅錢

手風琴



手風琴は西洋樂器中
 最輕便にして學び易
 く如何なる山間僻地
 にも獨習し得ると
 自在なり

金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五	金三圓五
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

新刊 手風琴獨まなび

上下二冊 正價金五十錢 郵稅六錢
 本書は手風琴を誰人にも學び易き樣精密に説明し
 且歌曲は古今を問はず秀拔なる名曲のみを撰擇した
 れば在來の者の如く一山百文の記事なしと云ふ一本
 御購求の上眞偽御試みあれ

文部省檢定

大捷軍歌

初編金四錢
二編金四錢
三編金四錢
四編金四錢
五編金四錢
六編金四錢
七編金四錢
郵稅金四錢

新式唱歌

繪入美本
初編金六錢
貳編金六錢
郵稅金二錢

文部省檢定

鈴木米次郎編

新式唱歌

全一冊
金卅五錢
郵稅金四錢

山勢松韻先生 同編

洋裝美本

第壹編新 年

正價金貳拾五錢
郵稅金貳錢

第貳編松竹梅

正價金參拾五錢
郵稅金貳錢

第參編吾妻獅子

正價金參拾五錢
郵稅金貳錢

ハルモ ニカ 横笛獨まなび

正價金貳拾錢
郵稅金四錢

フラジ ヨレット 銀笛獨まなび

正價金拾五錢
郵稅金貳錢

郵券貳錢送らば樂器目錄呈送す

本舖書籍樂器店

東京銀座三丁目二番地

十字屋

電話本局千七百五十九番